

明けましておめでとうございます♪ 新しい年、新しい気持ちで、新しいことに取り組みましょう。



◆ 明けましておめでとうございます。 【団長 渡邊義之】

高崎第九合唱団は本年結成40年を迎えます。論語では「40歳にして迷わず」といいますが、「高崎の歳末をベートーヴェンの第九交響曲で飾ろう」という当初の目標が確立したことを、皆さんと共に喜びたいと思います。これからの40年もまっすぐに進んでください。

それは音楽が人類の大きな宝物であるからです。すべての国のすべての人々にとって音楽はなくてはならないものです。いつの時代どのような環境下でも音楽はもっとも大切なものであるからです。音楽が人間性を磨くからです。

とはいえ技術は進歩します。人間が使用する道具は日進月歩して新しいものと入れ替わります。新しい道具を使って生きる新しい環境においても、人間性の根源に根ざした文化を磨くことを忘れてはなりません。

今年行われる40周年の記念行事には新しく参加される沢山の仲間と一緒に汗を流しましょう。そして5年後・10年後・40年後にその仲間が第九を歌い続けていることを心から願っています。今年一年よい年にいたしましょう。



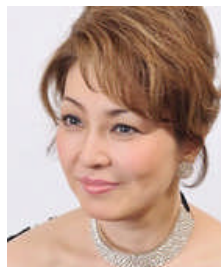
◆ 第40回記念演奏会は、11月21日(木) 指揮: 現田茂夫

ソリストは、ソプラノ: 佐藤しのぶ、メゾ・ソプラノ: 坂本朱、テノール: 錦織健、バリトン: 福島明也に決定しました。このソリスト陣は「すみだ5000人の第九」のみの組み合わせで、すみだ以外でこの4人組を揃えられたのは「高崎」だけです。それだけ4人を揃えることは困難なことなのです。

佐藤しのぶさんと錦織健さんの昨年のスケジュールだけ見ても、お二人の共演すらありません。この4人を揃えることができたのも、団からの強い願いと、真剣に交渉してくださった群響事務局のおかげです。もちろん管弦楽は群馬交響楽団、合唱は高崎第九合唱団です。



C 現田茂夫



S 佐藤しのぶ



MS 坂本朱



T 錦織健



B 福島明也

◆ スペイン公演記念誌出版記念パーティのご案内《来週から》

受付に参加申込用紙を用意しますので、必要事項記入の上、会費を添えて申し込んで下さい。

日時: 2月16日(土) 16:00~18:00 会場: 高崎市役所21階「アートマルシェ」

会費: 5000円 (旅行参加、非参加に関わらず)

《記念誌は、旅行ご参加の方には、全員

1冊無償でお渡しします。これ以外(追加、非参加者)は、1部1000円でお買い上げ下さい。》

◆第39回演奏会の記録 ～来週から引換開始～

CD・DVDを注文された方は、来週以降、受付で代金と引き換えで受け取ってください。なお、合唱団の記録用として作成したもので、市販は禁じられています。団員以外がご覧になる場合は十分ご注意ください。※録音と録画は群響の許諾済。演奏は日本音楽著作権協会の許諾済。

演奏会の写真は、受付にて申込用紙に記入し、1200円を添え、1月中に申し込んでください。

◆すみだ5000人の第九 参加の皆様へ 2月24日(日)

電車、集合や予定は2月の「たいむず」でお知らせいたします。今年のソリストメンバーは、11月の当団演奏会とまったく同じ顔ぶれです。ぜひ堪能してきましょう。

◆今後の予定

1月17日(木) 通常練習開始(全員、いつもの教会)

2月16日(土) 海外公演記念誌出版パーティ アートマルシェ(申込者のみ、市役所21階)

2月24日(日) すみだ5000人の第九(申込者のみ、両国国技館)

5月19日(日) メイコンサート(全員、群馬音楽センター)

5月23日(木) 総会+ミニコンサート(全員、いつもの教会)

6月 6日(木) 第40回発声式(全員、第九の練習開始)

8月サマーレッスン予定、10月19・20日軽井沢レッスン予定、10月27日40周年記念パーティ予定、11月21日(木) 第40回記念演奏会 群馬音楽センター

◆「第九三昧、年間6回」 【テノール 林 英敏】

2012年中、6回も第九を歌う機会に恵まれました。2月の国技館、10月のバルセロナで2回、12月は3回(前橋、音楽センター、足利)で合計6回。私の年間最多第九合唱回数になりました。もっとも、回数より歌の出来具合が最優先でしょうが、それは「ノープロブレム」ということで臨まないとできない経験。2012年は、「道場荒らし」というノウテンキな妄想を抱きながらも、「第九を歌える」という「合鍵」を持っていることの幸運を感じながらの合唱三昧の年でした。

◆足利の第九ご報告 12月23日(日) 【テノール あきら】

歌手18名が両毛線で足利へ。足利は33回目の演奏会で、その第1回から高崎と足利はお互いを迎え入れ、正に兄弟合唱団です。指揮黒岩英臣、S:佐竹由美、MS:井坂恵、T:上原正敏、B:宮本益光という出演者で、特筆すべきは黒岩先生のテンポ。ゆったりとしておらかな第九でした。マーチの前の vor Gott.はとにかく伸ばし、長い。でも高崎組はゲネプロだけで合わせられ、無事に2012年の歌い納めとなりました。赤羽先生もこの日は観衆に。気づかなかった数名は第3楽章でおおらかに飲まれ、フラフラと危ない様子でした。高崎帰着後ミニ忘年会が催されました。

◆入場者数1345人 第39回高崎の第九コンサート 【テノール あきら】

スペイン公演帰朝記念と銘打ち、開催されました。

スペインでは東日本大震災への救援に感謝し、復興現状を報告しました。また、ベートーヴェンが残してくれた世界共通の曲「第九」で、スペインとつながり、世界は一つであることを実感したのです。

そして迎えた年末の第九コンサート、入場者数を発表後も、

「もっといたのでは」という声が聞こえそうです。

(上の写真は開演10分前)

「第九」は「喜びの歌」とか「歓喜の歌」と言われます。今がうれしくて仕方ないという歌ではありません。苦しみも悲しみも全てを知った上で、歓喜のために歌う曲なのです。だから世界中で愛されているのです。

1年目の方も40年目の方も、ここでは一緒、同じ楽譜、同じ舞台。世界平和を祈る世界市民とともに、私たちは歌い続けます。小澤征爾や山本直純のルーツであり、日本で2番目に歴史のあるプロの群響、そのホームタウン「高崎」。この地で歌える機会は国内でも本当に貴重で希少な機会なのです。大事にこの1年を歌いましょう。

そして多くの裏方さん、ご苦労様。(左の写真はアナウンス嬢富田さんと中村事務局長)

